

第97期 年次報告書

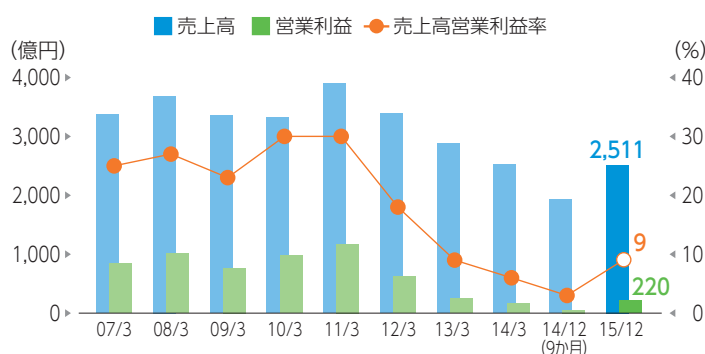
2015年1月1日～2015年12月31日



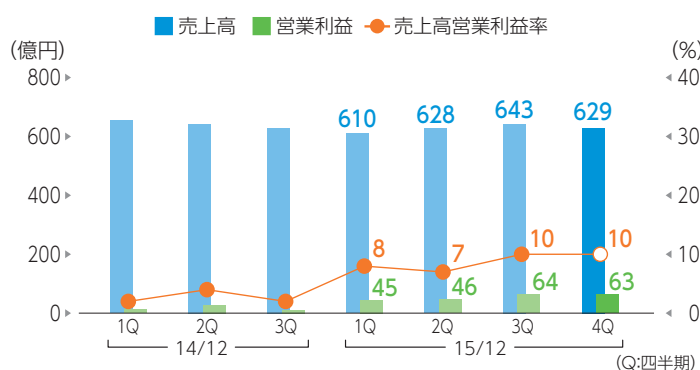
Art by Shinichiro Aikawa

連結財務ハイライト

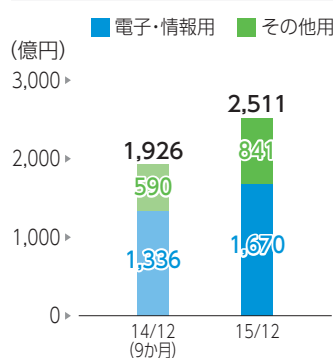
売上高・営業利益・売上高営業利益率



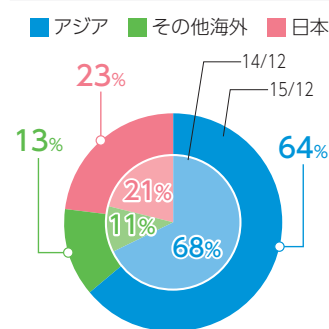
四半期 売上高・営業利益・売上高営業利益率



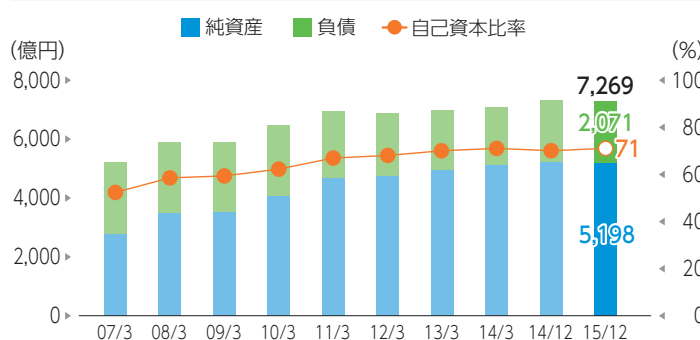
部門別売上高



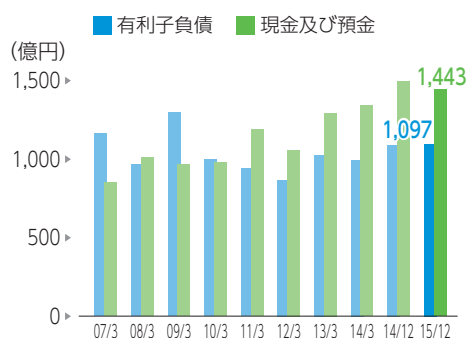
地域別売上比率



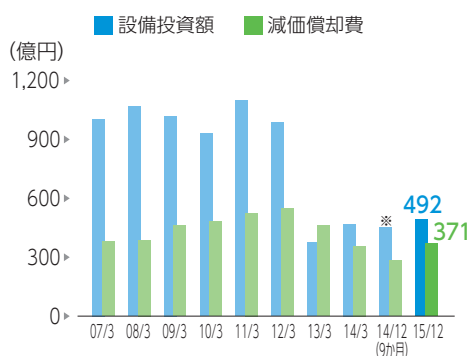
負債・純資産・自己資本比率



有利子負債・現金及び預金

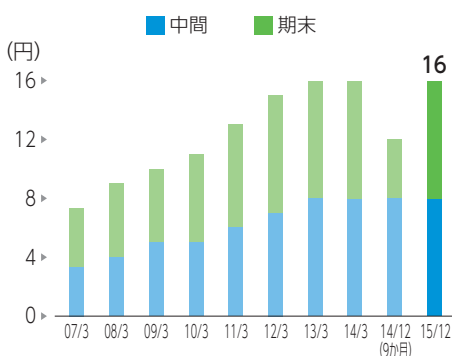


設備投資額・減価償却費



※海外子会社の1～3月の設備投資額を含んでいます。

1株当たり配当額の推移



(注)過去の株式分割の影響を調整のうえ記載しています。

「世界一の特殊ガラスメーカー」を目指して

中期経営計画「EGP2018」の
目標達成に全力をあげてまいります。

社長 松本 元春

Q 15年度の業績や取り組みを振り返っていかがでしたか？

A 15年度は、業績回復に向けた取り組みを進めてきました。売上高は想定をやや下回ったものの、営業利益は増益となり、前期までの減益傾向に歯止めをかけることができました。

ディスプレイ分野については、主力市場の韓国（電気硝子(Korea)）に移設した液晶用ガラスの溶融・成形設備が収益に貢献しました。一方、成長市場の中国においても電気硝子（廈門）の立ち上げ準備を進め、昨年12月に窯の火入れを行いました。また、これと並行し、中国で三番目の加工拠点、電気硝子（南京）（本年夏頃稼働予定）の準備を進め、加工能力の充実を図りつつ、中国市場における販路確保に努めました。一方、ガラスファイバにおいては自動車部品向け高機能樹脂用チョップドストランドが堅調に推移しました。光関連・電子デバイス用ガラスについても、蛍光体ガラス<ルミファス>などの新製品が堅調であったことや、中国の通信インフラ需要を背景に光関連部品が好調に推移し、15年度は2割程度の増収となりました。

Q 16年度の見通しと主な取り組みを聞かせてください。

A 液晶用ガラスは、設備当たりの生産量を引き上げ、設備数を減らしつつ総生産量は増やしていきます。そのために、溶融、成形、加工の品質を上げる、ラインスピードを上げる、設備ライフを長くするなど、様々な面で効率アップの施策を進めます。ガラスファイバは、シェア向上を図り売上を伸ばしていきます。現在、主力のチョップドストランドは世界シェアの3割強を占めますが、昨春稼働したマレーシアの新設備を十分に活用し、中期的には4割程度まで引き上げたい考えです。この

他、半導体用サポートガラスや、カメラなどに使われる赤外線吸収フィルターなどの新製品の拡販を進めます。一方、昨年公表した日本板硝子さんとのガラスファイバに関する協業を含めて、ガラスファイバ事業の拡大につなげていきます。これらを通じ、16年度は売上高2,560億円、営業利益220億円の達成を見込んでいます。ディスプレイ事業については、足元の市況の減速や価格動向が心配されますが、後半には需要は回復に転じると見えています。また、その他の事業分野については、総じて堅調な需要が続くものと予想しています。

Q 昨年12月に新たな企業理念体系を制定されました。

A 当社には創業の精神やそれをベースとした企業理念はありましたが、全体を「体系」としてまとめたものがありませんでした。一方、時代の変化とともに、事業環境や事業ポートフォリオ、従業員構成も大きく変わり、創業来、伝承されてきた考えが若い従業員も含め隔々まで引き継がれているかと言われると、弱い部分がありました。今後も成長を遂げていくためには、「ルーツ」を再確認することと、「進むべき道」を示したしっかりとした「旗印」を持つことが必要です。こうした背景から、創業の精神を今一度整理し、従来の企業理念を今日に合った表現に改めました。同時に、「目指すべき企業像」を“世界一の特殊ガラスメーカー”と定め、「大切にしている価値観」とともに「企業理念体系」としてまとめ、グループ全体で共有を図るようにしました。

Q 今回、中期経営計画「EGP2018」を公表されました。眼目は何ですか？

A 「EGP2018」は、“世界一の特殊ガラスメーカー”実現への一里塚です。そして、眼目は「成長」にあります。当社グループの売上高は、10年度の3,902億円

をピークに大きく下がり、ここ数年は2,500億円程度で推移しています。今回、「EGP2018」の目標を、「2018年度に、売上高3,000億円・営業利益300億円・営業利益率10%」と定めましたが、これには、何としても「成長」させるという強いメッセージを込めています。成長のドライバーは、“ディスプレイ以外”の事業であり、よりバランスの取れた事業ポートフォリオに変えていきます。そのために、M&Aや協業を推進し、事業化を見据えたメリハリの効いた研究開発を行いながら、具体的な成長に向けての取り組みを意識した舵取りを行っていくつもりです。基本方針ですが、「ディスプレイ」関連は収支重視の運営を徹底し、効率を高め収益力を強化していきます。「機能材料、光・電子、医療・耐熱・建築」関連は既存事業の成長に加え、前述のとおりM&Aや協業等による拡大を目指します。そのための戦略的投資として、通常の設定投資とは別に本計画の3か年で約500億円の枠を設定しました。

Q CSR(企業の社会的責任)の現状はいかがですか?

A CSRについては、本業を通じた社会貢献を前提に、「環境保全」、「地元貢献」、「障害者雇用」の3つを重点テーマとして継続的に取り組んでいます。「環

境保全」では、エネルギー削減を目指したプロセスの構築と、歩留まりを上げることによる廃棄物の減少を考えています。「地元貢献」では、地元の次世代人材の育成支援を基本に大学の寄附講座や地域の子どもたちを対象とした科学教育イベントへの支援等を行っていきます。「障害者雇用」については、法定雇用率を大きく上回る現在の水準を維持しつつ、幅広く障害者の方々を雇用できる環境を整えていきます。

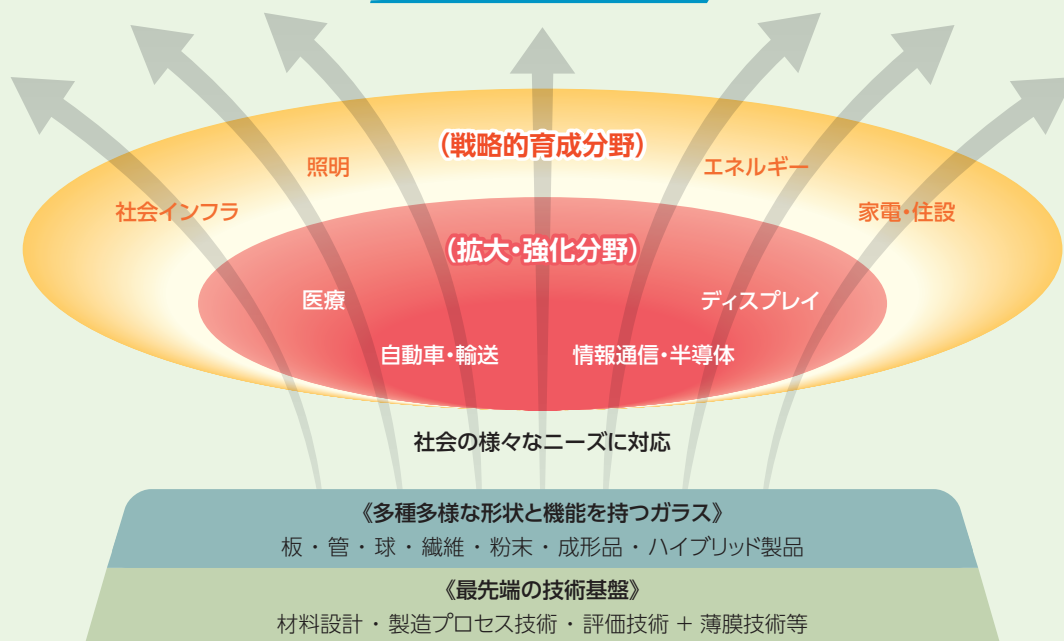
Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置付け、安定配当の継続を基本方針としています。よって15年度の配当は、1株当たり16円(中間8円、期末8円)とさせていただきます。今後は安定配当の継続を図ると同時に、時機に応じた弾力的な還元策も検討していきます。最後になりましたが、当社の基本は、競争力のあるガラスの基盤技術を築き、優れたモノづくりを行っていくことに尽きます。“特殊ガラスの世界”を目指し、「EGP2018」の目標達成に全力で取り組む所存ですので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

[ビジネスモデル図解]

“ガラスの持つ無限の可能性を引き出し、モノづくりを通して、豊かな未来を切り拓きます。”

GLASS FOR FUTURE



[EGP2018の概要]

基本方針と施策

① 「ディスプレイ」 関連事業の収益力強化

- ・ 製造プロセス改善による生産性と品質の向上
- ・ 海外への円滑な生産移転
- ・ リスクをコントロールし、収支を重視した経営

② 「機能材料、光・電子、医療・耐熱・建築」 関連事業の拡大

- ・ 新たな事業機会と成長シナジー獲得のためのM&A・アライアンス戦略の具体化
- ・ 拡販・投資による既存事業の成長
- ・ 新規開発品の早期事業化

③ 研究開発の強化

- ・ ガラスの優位性を活かした「材料・プロセス・製品」の開発推進
- ・ 材料設計、製造プロセス技術、評価技術における基礎技術の向上
- ・ 新規事業創出や既存事業拡大のための知財力強化およびライセンスインやクロスライセンス等の活用

④ 積極投資

通常の設備投資のほかに、戦略的投資（M&Aや他社との協業・提携を含む）として当該3か年で約500億円を設定

経営目標

売上高 **3,000億円**

(内訳)

電子・情報 **1,700億円**

(ディスプレイ用ガラス、光関連・電子デバイス他)

機能材料・その他 **1,300億円**

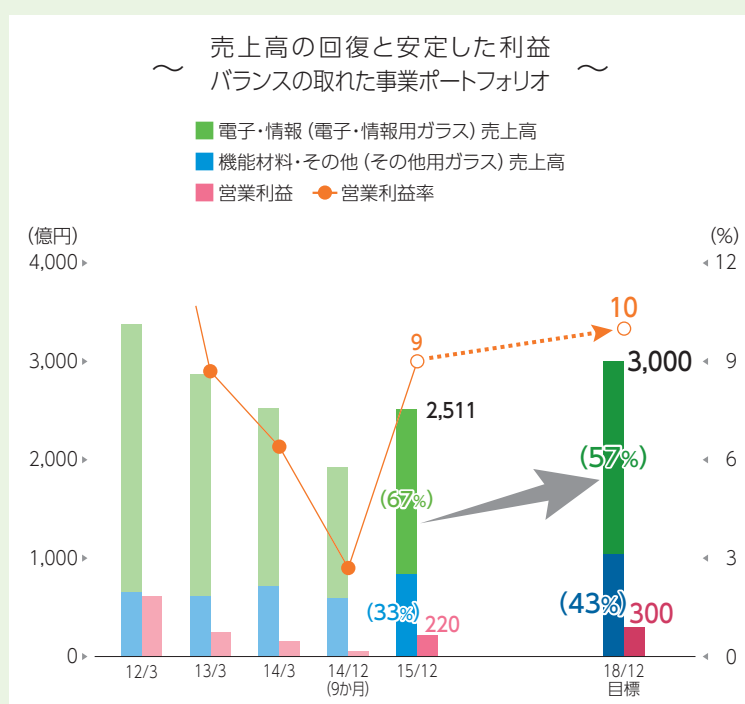
(ガラスファイバ、医療、耐熱、建築他)

営業利益 **300億円**

営業利益率 **10%**

期 間

2016年1月1日から2018年12月31日



わたくしたちは、“文明の産物”の創造を通して社会に貢献するという創業の精神を、企業理念の底流をなすものと位置付けています。

【企業理念】

「ガラスの持つ無限の可能性を引き出し、
モノづくりを通して、豊かな未来を切り拓きます。」

わたくしたちは、創業の精神を企業活動の根本に据え、持続的成長を図るべく企業理念を定めました。ガラスは、材料設計・溶融・成形・加工といった技術により、様々な特性や機能を持たせることができる優れた素材です。ガラスの持つ新しい可能性を引き出し、社会や生活をより快適に、より豊かにしたい、そんな想いを込めています。

スローガン

GLASS FOR FUTURE

【目指すべき企業像】

「世界一の特殊ガラスメーカー」

わたくしたちは、特殊ガラスの分野で、人材、技術、モノづくりにおいて世界一の企業になることを目指しています。同時に、従業員が仕事に誇りを持ち、企業活動を通して社会に貢献する存在でありたいと考えています。わたくしたちの考えるモノづくりは、自然との共生を基本として、最先端の技術開発、最高水準の品質、高効率の生産、潤沢な製品供給を実践することです。

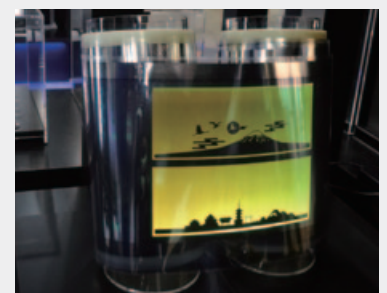
【大切にしている価値観】

- ・お得意先第一 お得意先のご要望を理解し、そのご要望にどこまでもお応えすること。
- ・達成への執念 執念をもって、課題を為し遂げること。
- ・自由闊達 前例にとらわれない自由な発想と、部門や世代にとらわれない自由な発言を尊重すること。
- ・高い倫理観 いかなる局面においても、常に高い倫理観を持って誠実に行動すること。
- ・自然との共生 自然と共存することを常に意識し、環境負荷の低減に努めること。

TOPICS

第8回ライトテックEXPOに出展（2016年1月13日～15日 東京ビッグサイト）

LED／有機ELの開発・産業応用に関する技術を一堂に集めた展示会「ライトテックEXPO」に出展し、有機EL照明の光取り出し効率をアップさせる高屈折率ガラス基板<HX-1>や内部光取り出し層付ガラス基板、薄型・軽量・フレキシブル化に寄与する超薄板ガラス<G-Leaf®>などを展示しました。<G-Leaf®>の応用例として、ドイツの研究機関Fraunhofer FEPがロールtoロールプロセスで製作したフレキシブル有機EL照明デバイスも展示し、来場者の注目を集めていました。



Fraunhofer FEPが製作した
フレキシブル有機EL照明

出前授業を開催

昨年8月に、大津市科学館の発明・発見・ものづくり事業「IFクラス」に協賛し、出前授業を行いました。地元の小学生や中学生が参加し、ガラスの性質、作り方などを学んだほか、ガラス切り実習を行いました。参加した子どもたちからは多くの質問がなされるなど好評でした。当社では、「地元貢献」というCSRの重点テーマの一環として以前からこのような地元の次世代人材育成支援に取り組んでいます。



会社概要

会社概要 (2015年12月31日現在)

創 立 1949年12月1日
商 号 日本電気硝子株式会社
本 社 滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号
TEL 077(537)1700(代表)
FAX 077(534)4967
資 本 金 32,155百万円
従 業 員 数 5,220名(連結)
営 業 所 大阪・東京
事 業 場 大津・滋賀高月・能登川・若狭上中・
精密ガラス加工センター
主要事業内容 特殊ガラス製品の製造・販売
連結子会社 国内12社
海外12社(マレーシア・韓国・中国・台湾等)
ホームページアドレス <http://www.neg.co.jp/>

取締役および監査役／執行役員 (2016年3月30日現在)

取締役会長 (代表取締役)	有 岡 雅 行	社長執行役員	松 本 元 春
社 長 (代表取締役)	松 本 元 春	常務執行役員	筈 本 雅 博 竹 内 宏 和 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹
取 締 役	筈 本 雅 博 竹 内 宏 和 佐 伯 彰 久 津 田 幸 一 山 崎 博 樹 小 田 野 純 丸 ※1 森 修 一 ※1	執 行 役 員	大 浴 成 一 青 木 重 明 後 藤 茂 金 井 敏 正 前 中 祐 輔 岸 本 曉 中 村 憲 生 竹 内 清 秀 中 川 邦 広 野 村 博 明 久 保 正 也 松 宮 晴 樹 加 埜 智 典 角 見 昌 昭
常 勤 監 査 役	来 住 富 治 夫 應 治 雅 彦		
監 査 役	石 井 和 也 ※2 木 村 圭 二 郎 ※2		

※1 社外取締役
※2 社外監査役

株式の状況 (2015年12月31日現在)

株式に関する事項

発行可能株式総数 1,200,000,000株
発行済株式の総数 497,616,234株
単元株式数 1,000株
株主数 13,296名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ニプロ株式会社	68,335	13.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,283	6.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,626	4.5
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	14,547	2.9
THE BANK OF NEW YORK 133524	12,815	2.6
SAJAP	8,460	1.7
株式会社滋賀銀行	8,089	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	7,824	1.6
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	7,650	1.5
PICTET AND CIE (EUROPE) S.A.	5,599	1.1

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月
基準日 定時株主総会関係・期末配当金支払関係
毎年12月31日
中間配当金支払関係
毎年6月30日
上場証券取引所 東京(市場第一部)
株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
公告の方法 電子公告(<http://www.neg.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関するお問い合わせ先

内容	お問い合わせ先
支払期間経過後の配当金について 特別口座に関する事項(※1) (特別口座から一般口座への振替請求等)	三井住友信託銀行(株) ☎0120-782-031
氏名・住所等の変更	口座を開設されている証券会社等
配当金の受領方法(振込先等)の指定	*口座を開設されていない方は 上記三井住友信託銀行(株)
単元未満株式の買取・買増請求(※2)	

※1 特別口座のまま売買等を行うことはできず、一般口座への振替えが必要で。

※2 当社での買取りまたは1単元(1,000株)に不足する数の株式を当社から買増することができます。
なお、当社での手続きに係る費用は無料です。